第６回石巻市総合計画審議会　会議録

■日　時　令和３年３月４日（水）　午後６時～午後８時２０分
■会　場　石巻市役所防災センター　多目的ホール
■出席者　別紙のとおり
■会議内容

１　開会

委員数２０名に対して１４名が出席しており会議は成立。

新委員の紹介　石巻青年会議所　理事長　沼倉勝哉委員（令和３年１月２８日委嘱）

２　開会あいさつ　岩田会長

今回が審議として最後となるので、多くの意見をいただきたい。

３　議事

（１）報告事項

ア　第２次石巻市総合計画策定スケジュールについて

（説明：吉田復興政策課長補佐）＜資料１＞

・市長の退任に伴い、全体的なスケジュールの見直しを行った、令和３年４月末の市長選後に調整を行い、９月の議会提案を予定している。

・３月２２日に市長へ答申を行う予定としている。

質疑応答　特になし

イ　基本計画中間案全戸配布による市民意見について

（説明：吉田復興政策課長補佐）＜資料２－１及び資料２－２＞

・中間案の概要版を全戸配布し、１月２８日から２月１２日にかけて意見を募集した結果、６７の個人及び団体から１３６件の御意見をいただいた。

・御意見を事務局で整理して市の考え方を示しており、今後公表する。

（２）審議事項

ア　第２次石巻市総合計画基本構想（答申案）について

（説明：今野復興政策課長）＜資料３－１及び資料４＞

・基本構想（原案）への追加箇所について説明。

イ　第２次石巻市総合計画基本計画（答申案）について

（説明：今野復興政策課長及び星ＳＤＧｓ地域戦略推進室長）

・前回の審議会で委員からいただいた御意見への回答及び修正箇所について説明。＜資料３－１及び資料５＞

・地域まちづくり委員会での審議を経て、地区別将来展望の修正箇所について説明。＜資料３－２及び資料５＞

・基本計画（中間案）では目標指標の項目のみを示していたため、具体的な数値を示した。数値目標と重要業績評価指標（ＫＰＩ）の設定について考え方を説明。＜資料５及び資料６＞

質疑応答

会長：　資料４の基本構想は答申したのではないか。

事務局：　まだしていない。基本構想、基本計画ともに答申いただく。

会長：　ではまず資料４の基本構想から議論しましょう。

委員：　概要版を見て分かるとおり、基本目標が１から６まであるが、４を除いたものは、基本的に民生の問題である。市民が輝くとか市民が主体だとか言うが、今までの石巻市では、このような立派なものを作ることが目的となってしまっていた。これが出来上がったところがスタートにも関わらず、終わってしまうという石巻市の歴史を変えなければいけない。策定した我々、並びに担当者それぞれが責任を持つ。併せて、これまでの石巻市で言えば、主体者がなく、市民に投げかけても実体がないので、跳ね返ってこない。今までは主体ではなく、傍観者だった。使命感のある石巻市職員全員が市民であるという意識にならないといけない。基本構想の第３編第３章として新たに作る必要があるのではないか。それは基本構想の達成に向けてということで、作った我々が主体となると同時に、市の全職員が市民として主体的にこの運動に取り組む、さらに家族や仲間に声掛けをして、この目標の達成を目指さない限り、仏作って魂入れず、あるいは空念仏ということで終わってしまう。これから１０年の発展を目指すという覚悟を決める、それ位の強い意気込みを書かなければ、出来上がったものが市民には伝わらない。作った人は作っただけ、やる人は誰かというのがない。そこをイメージすべきだと思う。その内容や文章については、必要があればこの委員から選んでもらい、第３編第３章で目標達成に向けて考えていただければありがたいと思う。

事務局：　我々も作りっぱなしではいけないこと、策定が最終段階ではないということは肝に銘じている。策定に携わった職員もそうだが、市民にも意識を持っていただく必要があるという御意見は、そのとおりだと感じる。我々としては、基本構想、基本計画の策定に満足するのではなく、策定したからには取り組むことが大前提であるので、御意見にあった第３編第３章というような表現はしていない。基本構想に則り、これを達成するために努力することは当然であるということを踏まえて、今後取り組んでいきたいと考えている。

委員：　そういうような今までの流れを変えていかなければならない。実際、１２～１３万人の市民を相手にしても動かない。野球の応援団でも、リーダーがいて初めて動く。そのリーダーになるのは市の全職員である。担当部署だけでなく、担当部署以外も全て自分が主体だという意識付けにしていかないと、執行部が何を言っても、担当の自分の分野だけ良ければ良い、となり、それではいけない。市民を巻き込むための動力を持つのは市の職員で、元々公僕として使命感に燃えて職員になった人達である。震災のときは残業して土日も休まず働いた。それ位の気概を持たないと、今回の１０

年後への新しいスタートが惰性に流されてしまう。実際、現在水産業界は危機的な状況である。その位大変な時代にあるということを考えた上でやらないと、今までと同じになってしまうので、何としても入れてほしいし、私個人の意見だけではなくて、皆さんの御意見も聞きたい。

会長：　施策の展開については、事務局で議論していただきたい。
私も長い間計画に携わってきたが、私の仕事で有名なものが福島県の三春町と山形県の金山町のまちづくりである。４０年前に策定した計画を着実に執行してきた。作った役場の人や大工も参加し、当時自分は２０代だったが、若い世代がイメージを持つために模型等も作った。その模型を小学校の近くに飾ってイメージを共有した。要は町長が変わっても政策は変えない、方法を変えないという力をつけてきた人達が今、課長になっている。今悩んでいるのは、入ってきた職員が、今の課長クラスが頑張ったから、まちづくりはもう終わったと言い出して、この２年位若い職員への研修をやり始めている。また自分達で考えてやらないといけないが、役場の中の研修は継続性を持ってできるかどうか。その時にこの計画を出してこないといけないだろう。それと、各課でやらないといけないので、そのためには、この資料５の基本計画でＫＰＩを出してきたのは良かったと思っている。ＫＰＩが各課の中で認識されていることが非常に重要で、その成果が目標指標の達成率につながる。各課で若い職員が中心になって、ＫＰＩを高める、あるいは下げる、それを目標としていることを若い職員への教育活動として年に数回行って５年が過ぎないといけない。

委員：　先程委員が言ったほかに、市民が動きたくなるような仕掛けをつくっていかないといけないと思っている。動かざるを得ないというか、動きたくなるというか、自分達で石巻市をもっともっと住みよいまちにしたい、と思うような何かの仕掛けをとことん議論して、市民協働のまちづくりをしていく方法である。予算も出すけれども、責任も持ってもらうというような仕組みをぜひ考えていただきたい。それがないと、私も作って終わり、という危惧を持っている。

会長：　宮城県の総合計画を作ったときに会長をしたが、毎年委員の皆さんを呼んでどこまで達成したか報告会をした。２年程行ったが、担当が変わったらやめてしまった。そういうことのないように、ぜひ新市長と相談して、年に１回位は顔を合わせて意見を交換するという場を作っていただけるとありがたい。答申案に書くべきことではないが、よろしくお願いします。

委員：　資料５の１５０頁にある「低炭素社会を実現する」は、私の仕事柄非常に関わってくるところなので、ここを問題にしたい。日経新聞を読んでいると、２０５０年にはカーボンゼロにすると菅政権が発表していて、どうやってカーボンゼロを推進していくのか。ヨーロッパはかなり進んでいるが、日本は極めて進んでいない。１５０頁には低炭素社会とあるが、２０５０年にはゼロ炭素である。これが５年間の計画にしても、いかに低炭素化を図っていくか、これがグリーンスローモビリティだけなのか。ＫＰＩは年間に９，１００人使っただけで良いのか。私は違うと思う。太陽光を

もっと使うとか、燃料電池を使うとか、グリーン水素を使っていくとか、そういうものに全く触れていない。これで本当に２０５０年に石巻市がゼロカーボンにできるのか。完全にずれているのではないかと思う。この指標も対策の一つだとは思うが、それ以外は全く触れていない。風力を利用するとか、石巻市では現在どれ位のカーボンを出しているのか。今度まきあーとテラスがオープンするが、新築なのに重油ボイラーを採用した。なぜ今更重油なのか。この場で言うことではないと思うけれども、ずれているのではないか。ここの表現でもう少し色々なことを書けるのではないか。グリーン戦略に乗り遅れたところは没落していく。そこに早く乗ったところが安定していけるという論調なので、これだけで低炭素社会を実現するというのは、極めて弱いと感じる。

事務局：　１５０頁については、ＳＤＧｓモデル事業の内容を記載している。環境に優しいエネルギーについては、３１頁に記載しており、太陽光発電システムへの取組でCO_2の削減を図ると表現している。

委員：　太陽光も良いのだが、なぜ今更ボイラーを使うのか。その感覚がおかしい。やはり最初は天然ガスをどんどん使っていくべきだと思うし、積極的に採用すべきだと思う。CO_2はどうしても出るが、それでも重油よりもはるかに少ない。低炭素のものにできるだけシフトしていくという施策を入れていかないといけない。太陽光だけでは十分ではない。工業港等、産業用は大抵重油ボイラーなので、そこをどんどん切り替えしていくという考え方をしないと、１３２．２ｔから１１６．６ｔという目標があるが、太陽光だけで本当にそうなるのか、それから水素等の導入に取り組んでいく、そういうようなものをもっと入れるべきではないかと思う。

事務局：　確かに太陽光だけでは厳しいと考えており、どのようなエネルギーを取り入れるべきなのか、我々も研究して進めていかなければならないと考えている。今回お示ししたものは、１５０頁はモデル事業、３１頁は太陽光等を記載しており、１０年後、２０年後を見据えていくときに水素等もゆくゆくは考えていく必要があると考えている。

１５０頁については、地方創生への取組という位置付けで、これまで別に定めていた総合戦略の計画を、今回の総合計画に内包して作っており、モデル事業に特化した形で記載している。御意見いただいた環境の部分については、３１頁にあるように、市の大きな方向性、環境に関する施策の方向性として記載している。総合計画では、福祉や医療、産業等の大きな目標として位置付けており、そこから環境基本計画のような具体の個別計画を位置付けている。これらを全て総合計画に網羅するには限界があり、ぶら下がっている各部が所管する個別計画の中で政策を推進していくという位置付けであるので、御理解いただきたい。

委員：　ぜひ環境基本計画の方できっちり定義していただきたい。

会長：　エネルギー問題には国策の問題もあって、水素社会を進めると言いながら全く進んでいない。インフラを整備するという問題も含めて、なかなか石巻市として書けないということも理解いただきたい。私も表現がもう少し

上手いと良いと思っている。
それから、基本計画の位置付けだが、これが出来て個別の施策に移っていくので、それを監視していくことが大切だと思っている。
基本計画の質問も出たので、計画の方も含めて御意見はあるか。

委員：　資料５の１５４頁の石巻地区の現況の下から２行目に「東日本大震災の記憶と教訓を後生へ伝承するため『旧門脇小学校』が震災遺構として整備されています。」とあるが、これと同じように大川小学校も震災遺構となっているので、１５６頁にある河北地区の現況の最後に付け加えてほしい。
もう１点、この計画の中に旧北上川と新北上川の両方の記載があるが、正しくは柳津から追波湾に流れる方が北上川、石巻を流れる方が旧北上川となっているので、その辺の整合性を取った方が良い。桃生地区に新旧北上川と表現されているが、これは違っていると思うので、検討いただきたい。

事務局：　１点目の大川小学校の震災遺構について、河北地区の部分になるので、まちづくり委員会と協議したいと思う。また、桃生地区にある新旧北上川について、現在と元々の北上川と表現するのに使っていたが、他の部分では新北上川と表現はしていないので、見た方が戸惑わないよう、不整合にならないよう整理させていただきたい。

委員：　先程の意見に関連して、ニーズに応じた行政サービスについては、全戸配布の市民意見にも出ている。それから審議会の意見にも出ている。基本構想を見ると３３頁にも「適正な職員の配置による行政サービスの確保」と出ている。では、その後に何か具体的にあるのかと見ていくと、基本構想の４４頁で持続可能な自治体運営を行うために人口の目標を設定している。令和２年度から１２年度の間に人口が１０％減り、これで何とか市はやっていけるとしている。それから、国がスマート自治体といって、ＡＩ、ＩＣＴ、事務の簡素化やプロセス化、負担を低減しなさい、とはっきりと自治体に示しており、そういった転換が求められている。私が思うのは、職員数を何％減らすと目標を立てても良いのではないか。そういう姿勢を示すオリジナル性を出しても良いのではないか。何とかスリム化しよう、組織体制の見直しをしよう、と書いてあるのだから目標を作っても良いのではないか。

事務局：　先程の説明にも重なるが、１つの大きな方向性としての総合計画であり、御指摘いただいた部分については、行政改革や人事の適正化等、これまでも含めて非常に重要な位置付けとして、行政改革プラン、職員適正化計画等それぞれの個別計画で様々な議論をしながら策定を進めているので、御理解をいただきたい。御指摘いただいたとおり、ＡＩ、ＩＣＴ、ＤＸについても計画を定めなければならない。様々な課題がある中で、議論を進めながら行政として課題をクリアしようとしている状況であるので、御理解いただきたい。

委員：　基本構想なり基本計画には入れられないか。

事務局：　例えば職員の適正数については、これは１０年間の計画であるので、それぞれの計画でタイムリーに見直しを図ると考えている。

会長：　日本は世界の中での役人の総数が少ない方である。１２０～１３０人に１人と言われている。大和朝廷やローマ帝国の時代は１００人に１人。職員の数を減らすと、行政のサービスが遠のいてしまう。抜本的な改革をしていかないといけない。総合計画に書く問題を超えてしまうように思う。

委員：　今の件も先程の件も、これが市で各計画を作る上での最上位計画なので、ここに基本を書いておかないと、各計画で整合性の取れていないものを作る可能性が出てくるのではないか。職員数が１００人に１人、１２０人に１人と言っても、人口は毎年１％ずつ減少していく。それにも関わらず人口減少に応じた職員数については何にも書かれない。サービスの低下という問題もあるが、比率からすればどんどん職員数が減っていくものではないか。人口は１０年で１０％減っていくのに、市の職員数は変わりません、というのはおかしい。だから先程も言ったように、CO_2を減らしていこうとしているに太陽光しか書いていないようでは、環境の計画を作るときに、総合計画には何も書かれていないから、例えば重油を使って良い、ということになりかねない気がしている。最上位計画であるのだから、ここに言葉だけでも、数字や概念をしっかり示すべきだと思う。

委員：　基本目標の６番目に、行財政について書いてある。以前、私は市立病院の赤字をどうするのか、早急に取り組むべきだという提案をした。そこで私は、市内の病院をやめて市立病院に入院した。現在も通っている。現在は他にも通っている病院があり、３病院の比較をしている。内部的にいろいろな問題はあるけれども、市民の意見を聞きながら改革をしていかないといけない。コロナ禍のために赤字化は当然だという地方の病院がたくさんある。そうではなくて、改善するために努力するには、先程の意見のようにコストの削減や職員数等、行財政の問題として収入をどう確保するのか、支出をどう抑えるのか。人口は減っている、老朽化のためにコストはかかる、これまでの歴史と同じで、この問題は避けては通れない。市の職員がまともにやろうとしても、最近の総務省の問題を内部で何とかしようと思っても無理があるのと同じである。我々市民が中に入って意見したことをやらないと、身内だけではやりきれない。これで良いのではないかと言って流されて終わってしまう。市民が主体と言うけれども、市民とは誰か、行政に明確な対象がない中で、空念仏で終わってしまうということを考えてもらいたい。

事務局：　御指摘のあった行財政については、説明の中でも触れたように、例えば基本計画の１１１頁にある現状と課題の部分で「職員数の減少による適正な行財政運営が必要である」と挙げている。それに対して１１３頁の施策の展開で「限られた人材、財源を最大限活用できる体制を構築する」とあるように我々に求められている職員像について研究しており、委員から御意見のあった職員がしっかりやらないといけないということに関しても３つ目の「市民に求められる職員像の実現に向けた職員研修などにより、職員の意識改革に努めます。」というところで表現していると考えている。基本構想、基本計画については、繰り返しの説明になってしまうが、基本

計画の４頁にあるように、基本構想が市の最上位計画として将来像と基本目標を設定している。これを受けて基本計画を策定し、それをもとに実施計画があり、それ以外にも職員適正化計画のような個別計画をもって細かいところに取り組んでいく体制であることを御理解いただきたい。

会長：　皆さんの御指摘の多くは個別計画に関わる問題で、総合計画にどこまで書き込めるかという内容はなかなか難しい。要は、総合計画に書いてあることを実施計画に移していけるのか、継続していけるのか、というのが、皆さんの意見の根底にある。チェック機能や推進をどうするのか。審査会か年１回の報告会か、そういう組織を作るとかそういう方法を模索する、ということを行財政のどこかに書けないか。市長へ答申する時には、実現の手法をお願いすることになるだろう。そういう部分を考えられないか。

それと５頁の１２行目にある、グリーンスローモビリティと「おたがいさま」から始まる文に閉じる括弧がない。グリーンスローモビリティとおたがいさまが並ぶのが不思議である。

委員：　会長と始めの意見と関連するが、資料２－２の市民意見で３頁にある１２番の「前の計画の反省が知りたかった。」という意見への回答が、「基本構想（原案）の第３章石巻市のいま、第４章の主要課題に示しております。」となっているが、どこに書いてあるのか。ここで言う反省というのは、前回ここまでやってこれができなかったというもので、市民の方が知りたいことだと思う。そういう部分がない。そういうチェック機能がないというのが、初めの意見にあるような「言いっぱなし」になりかねない。市の方から説明はされているし、計画にも書いてある。しかし、計画に書いてあるからそれで良いのか。市としてはそれで説明責任は果たすけれど、果たしてそれで良いのか非常に気になる。

事務局：　今後の取り組みとしては、ＫＧＩ、ＫＰＩを設定しており、節に設けた指標であるＫＧＩについては、市の内部だけではなく、外部の方に入っていただきながらＰＤＣＡサイクルで取り組んでいきたい。本日いただいた御意見として、この中にチェック機能の部分、ＰＤＣＡサイクルについて表記したい。

委員：　実行、実施に対するチェック機能のようなものを作っていかないといけない。１５～２０年前になると思うので定かではないが、１００人程の市民を１０人位の単位に分け、同じようなテーマで議論し、やはり数字を扱っていた。目標数値を提示して、どの程度達成しているのか、予算を回せるか、もう１つは進捗のチェックをした。ただ納期が終われば良いのではく、そこには原価も発生するので、そういったところも含めたものである。新しい総合計画についても、チェック機能を明確に示して実施し、進捗管理も大事にしてほしい。市民が入るワークショップなどの活動がたくさんあるが、新しい事業や新しいものを作る際に、若い人や子どもたち、いくつかの分野で特色のある人々を集めて、色々な意見をもらう。それなりに意見をもらうまではかなり活発に行うけれど、しばらくすると音沙汰がなくなってしまう。久しぶりにその会を開こうとすると、強い要望のあったも

のがいつの間にかなくなっている。なくなってやむを得ないものもあるだろうが、そういったことを追跡していくことも含めて、委員会のようなものを作ってチェックしていく機能を考えてほしい。

最後に、市民憲章をぜひ載せてほしいという意見を出したが、今日載っていて非常にありがたく思う。とても良く出来ているので、誇れる石巻になるために、ゆっくりとこの市民憲章を読んでほしい。

委員：　災害が発生した場合、９７頁や１４０頁に心のケアや相談体制を充実する、災害に強いまちをつくるとあるが、被災した個人や法人に対して行政自体がもっと寄り添って支援する必要があると思う。被災した個人や法人に行政がどういう手助けをすれば良いのか、国や県に働きかけていく。万が一災害が起きた時に、被災した人たちに寄り添って支援をしていく、ソーシャルワーカーを派遣するとかそういうことではなく、市自体が寄り添っていく、支援していくという表現も入れた方が良いのではないか。他人事のように書いてある気がする。

会長：　他にも社会福祉協議会等、他の機関が関わってくるので、全体を上手くコントロールできる能力が役場には求められる。

事務局：　ただいまの御意見に対して、９７頁では教育の分野としており、スクールソーシャルワーカーや防災教育の充実と記載している。防災に関しては、１９頁で地域防災力といった体制や組織について、同じように福祉の分野でもそういった項目があり、１つの分野で表現できないために全体に散りばめているということを御理解いただきたい。

委員から御質問のあった評価検証の部分については、市の考え方で「石巻市のいま」と「石巻市の主要課題」の２語で表現をしてしまったことについて反省している。実際には、第１次総合計画では７６の指標があり、全て数値化して評価している。第１次総合計画は東日本大震災によって途中で中止せざるを得ない事業も多かったため、総合計画と震災復興基本計画に位置付けた全ての事業を、進捗状況を含め数値化して評価した。それに加えてアンケート調査、基礎調査の検証を踏まえて「石巻市のいま」に整理し、それに対して「主要課題」として基本構想にまとめたことから、このような表現にしたので御理解いただきたい。

会長：　説明としてはそれで良いのだが、評価検証を数字でするために、この目標数値を設定しているので、それを毎年広報に掲載するとか、毎年議会に報告するとか、市長がみんなに葉っぱをかけるとか、そういったことをやっていないのではないか、と委員は言っている。

事務局：　第１次総合計画については、第２次総合計画の策定の段階で評価検証したが、今後の第２次総合計画については、案の段階ではあるが、推進会議という外部を入れた組織を設け、数値化した目標について毎年評価検証を行っていきたいと考えている。

委員：　学校教育の中にフリースクールと出てきたが、石巻市の不登校の子どもの割合や、学校教育と福祉の問題が別々に記載されている。虐待の問題は学校で見つけることも多いため、別々にしないで学校教育の中に入れておか

ないといけないと思う。それと、確かな学力とは何か、という疑問がずっとある。また、石巻市の旧市内だと本屋があるが、旧河北町や桃生町、河南町には本屋がないので、参考書が買えないという状況にあることを押さえていただきたいと思う。不登校の問題については、仙台市だと不登校の児童生徒のための部屋がある。そういう取組をしていかないと、大人が色々と言うけれども、小中学生が大人になっていくのだから、子ども達に対する取組は重要である。それから、環境問題と太陽光発電は別問題だと思う。太陽光発電をするために山が切り開かれて木がなくなっている。そういうところもこの中で話をしていかなければならないと思う。

委員：　これまでの構想を作ったのは大変な苦労があったと思う。各委員の鋭い指摘を受けて、一生懸命頑張ったと思う。意見にもあったように、総合計画を作って、これから各部門に落とし込んでいくことになる。そこからが本当のスタートだと思う。大体何％位出来たという感想があると思うが、我々委員は１００％やらないと意味がないと思っている。ここにいる皆さんの熱い気持ちが、各部門の責任者の行動に移せると思う。これを落とし込んだ部門に対して、投げっぱなしではなく、令和７年度まで見届けてほしいとこの場を借りてお願いしたい。

委員：　今回から参加させていただいた。たくさんの資料があり、委員からもあったように大変な苦労があったと思う。ＳＤＧｓと絡めて持続可能な石巻とあるが、委員からも意見があったようにこの計画自体を持続可能なものにしていかなければならない。市の職員だけでは難しい面もあると思うので、外部の我々や市民と協働していくということが大事である。これからもより良い石巻を作っていくために一緒に頑張っていきたい。

委員：　委員の皆さんからあったように、この計画の実効性をどのような担保で実行に移していくのか、非常に重要な視点である。個人的な考え方になるが、計画を作ったら変えられない、一度決めたものは変えられないという体質ではなくて、５年が経たなくても、毎年会議を開催して成果が見られなければこういうやり方にした方が良い、というような柔軟性のあるものにしていくというのも一つの方策ではないかと感じた。

もう１点細かい点になるが、基本計画の４１頁のがけ地についての記載は、「がけ地の崩壊等に災害のおそれ」とあるので、がけのことに特化していると読んだが、非常に重要なことである。住宅移転を促進するとあるが、移転する住民からしてみると非常に大変なことで、国からも１００％補助が出るわけではないはずなので、簡単に書けないと思う。移転のことだけではなくて、そもそもそういった危険地に住めない、いわゆる災害危険区域のようなソフト対策についても書いた方が良いのではないか。

会長：　日本が避けて通ってきたことが避けられなくなってきた。昔、町長に「あの堤防は明治時代の三陸津波だと突破してしまう」とシミュレーションしたら怒られたことがあった。今はそういうのもちゃんと見せて、時代とともに変わっていくが、それを見据えながらやっていかないといけない。

では、皆さんの御意見は以上でよろしいでしょうか。２２日に市長へ答申

となっているが、２２日に審議は行わないので、委員の皆さんから内容、進め方について許可をいただきたい。今日の意見で修正しないといけないところは、皆さんに一度修正案を送ることになるか。

事務局：　そこで提案として、もしよろしければ、会長及び副会長と調整させていただき、調整結果を皆さんに御報告し、答申するという形はいかがでしょうか。御検討をお願いいたします。

会長：　私が見た会議の中では、事務局はかなり丁寧に対応してきたと思っている。市民からこれだけ意見が返ってくるというのは、初めての経験である。反対に言うと、それだけ分かりやすいものが出来たということではないか。良いものが出来たと感じている。皆さんにお許しをいただいて、市長に答申したいと思う。

5　閉会あいさつ　大槻副会長

市長への答申については、会長と私に一任させていただく。本日はかなり厳しい意見があったが、市民を代表する審議会の思いである。進めるにあたっては、実施計画、個別計画とリンクさせながら、毎年ローリングをして、予算の裏付けを取って進めてほしい。市民の思いを受け止め、様々な形で実現に向けていってほしい。

6　閉会

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏　　名	所　　属	備　　考
1	岩田　司	東北大学災害科学国際研究所 教授	会長　出席
2	大槻　英夫	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 会長	副会長　出席
3	関根　慎吾	石巻専修大学経営学部　教授	出席
4	鈴木　康夫	東北福祉大学総合マネジメント学部 学部長・教授	出席
5	佐藤　伸吾	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所　所長	出席
6	佐藤　靖	宮城県東部地方振興事務所　所長	欠席
7	青木　八州	石巻商工会議所　会頭	出席
8	須能　邦雄	石巻市水産振興協議会　会長	出席
9	松川　孝行	いしのまき農業協同組合　代表理事組合長	欠席
10	阿部　隆	特定非営利活動法人石巻市スポーツ協会 会長	出席
11	西條　允敏	石巻市文化協会　会長	出席
12	沼倉　勝哉	一般社団法人石巻青年会議所　理事長	出席
13	千葉　陽子	石巻市女性活躍推進会議　副会長	出席
14	木村　民男	石巻市子ども子育て会議　会長	出席
15	佐々木　清勝	河北地域まちづくり委員会　会長	出席
16	大槻　敏也	雄勝地域まちづくり委員会　副会長	欠席
17	今野　まゆみ	河南地域まちづくり委員会　委員	出席
18	伊藤　桂子	桃生地域まちづくり委員会　副会長	欠席
19	佐藤　尚美	北上地域まちづくり委員会　委員	欠席
20	後藤　ゆか	牡鹿地域まちづくり委員会　副会長	欠席

（令和３年３月４日現在）（敬称略）